

≡ 会員からのこえ ≡

時を感じる

梅の花が今年も沢山咲き、とてもいい香りが一体に広がった。春になったら、またアサガオの種を植えようと思っている。それぞれの季節でその時々の花々や景色が、色や形、香、音を楽しませてくれるのを変わらず喜んで生活している。

生活様式は、そんな私でも変わってきたことを感じる。まず、現金をあまり持たなくなった。体の不調があって小銭が重たいと感じたことがきっかけであるが、私だけではなく、子どもたちの世界にも広がっていることを知った。幼稚園でお店屋さんごっこをする子どもが、「pay payにしますか？ QRコードにしますか？」と聞いてくる。見ると、上手にQRコードをそれらしく描いている。また、駐車場におもちゃのミニカーを入れようとする子どもも、「カードを入れてください」等と言う。本物のお金を使わなくなったと、先生方が心配されていた。なので、わざと園ではお金を作って遊びに使うそうである。

電子決済をしても、支払った後のスマホを直すことに手間取っていることを毎回感じる。季節も少しずつ変わっていくのだろうが、変わらない楽しさを大切にしたい自分と、何とか時に乗っていこうとする自分に時を感じるこの頃である。

小磯 久美子

絵本の魅力を伝えたい

シンプルな言葉と絵で表現されている絵本は、子どもが読むものというイメージがありますが、絵本は年齢制限なしの豊かで深いメディアです。同じ絵本でも読む年齢により伝わってくるものが違います。絵本を読み返すと、ストーリーだけでなく当時の思い出までも蘇ってきます。忘れかけていた感情や記憶、感性を静かに呼び覚ましてくれます。読む人の人生経験がその物語に意味を与えていくと言えましょう。

絵本の魅力を多くの人に伝えたいと、「おはなし会」における読み聞かせ、公共図書館の絵本講座の講師、大学での認定絵本土養成講座の講義、絵本の可能性をさらに探究するための研究など、絵本専門士として活動を続けています。

絵本専門士とは、国立青少年教育振興機構が認定する「絵本に関する高度な知識、技能、感性を持つ専門家」の資格です。私は、絵本専門士養成講座を受講し、2019年に認定されました。興味・関心のあつたことを学ぶ楽しさを改めて実感しました。

絵本に対する理解促進、読書活動の推進等のため、これからも健康に気をつけて、楽しみながら、生涯現役をめざします。

徳永 加代

リタイア生活1年生～遠距離介護と孫育てと自己充実と～

職を辞して9か月になりました。昨年末に岡山に帰省の際、一人暮らしの母が急に衰えた様子を見せたので、止む無く退職を決意しました。慌ただしい日々になり、多くの先生方にご挨拶もできないままで大変申し訳なく思っています。民間採用の新参者を様々にご指導いただき、お世話になった先生方にこの場をお借りして改めて心より感謝と御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

退職後の6月に、その年の卒業生や在校生、保護者が学校の食堂でわざわざ送別会を開いてくれたのは感激でした。進学先の様子をSNS等で知らせてくれる卒業生もいて嬉しい限りです。

実家には今、ペットカメラ（双方向マイク付）を複数台設置して、携帯アプリでリアルタイムの母の様子を確認しつつ、月に1～2回帰省して遠距離介護をしています。平日はヘルパーさんや看護師、療法士、宅配弁当などの助けを借りています。女優の柴田理恵さんが出された遠距離介護の本がとても参考になりました。

一方、孫8人が自宅近くにおり、学校園の行事に出たり、小旅行や墓参りをしたり、虫取りや宿題を手伝ったりしたりしながら、1人1人の個性を伸ばしてやろうと考えています。週3回のジム通いとともに、日本教育会大阪府支部の社会見学や同級生との月1回の関西名所歩き、好きなコンサートや美術館巡りにも積極的に出かけています。

日笠 賢